

第 123、124 回 研究会報告

第 123 回技術交流研究会が平成 23 年 6 月 2 日(木)に、第 124 回技術交流研究会が平成 23 年 9 月 1 日(木)に、どちらも Docon 新札幌ビル 3F 会議室で開催しました。その内容について以下に紹介いたします。

■第 123 回 講演会概要

【講演 1】

『サイクルシェアリング「ポロクル」の取組み』

(株)ドーコンモビリティデザイン
企画グループ マネージャー
米田直也氏

◆講演要旨

海外のみならず、国内でも注目される自転車のシェアリングの現状を紹介しつつ、これまでに行ったドーコンにおけるサイクルシェアリングの取組み、新会社を設立した経緯、現在サービス中の「ポロクル」の概要と掲げる目的など、今後の動きについてご紹介します。

【講演 2】

『東日本大震災における技術士会の動き』

日本技術士会防災支援委員会
松井義孝氏

◆講演要旨

2011 年 3 月 11 日、東日本地震が発生いたしました。それから 2 ヶ月がすぎ、現地はまだまだ四苦八苦の状態が続いております。あわせて、福島原発とその風評被害も発生しております。これに対して日本技術士会では、従来型のインフラ災害を越えた多岐にわたるプロジェクトを構成し始めております。会員各位のご支援を賜りたく、それらの方向について話題を提供します。

さらに、講演者である松井も、当日は羽田空港にて地震に遭遇し空港ロビー泊となりました。今回の現地と皆様のご苦労に比べましたらとても問題になるようなことはありませんが、若干ながら被災者心理をメモいたしましたので考察させていただきます。

第 123 回は、(株)ドーコン(株)ドーコンモビリティデザイン)が取り組んでいるサイクルシェアリング

について、米田氏にご講演いただきました。サイクルシェアリングに関することと、現在札幌市内で運営中の「ポロクル」について、その苦労話などをお話いただきました。



写真-1 ポロクルのポート

「ポロクル」のポートとは、自由に選べる自転車の駅のことです。現在(9月1日)は 32 ヶ所で自転車を利用することができるとのことでした。

次に技術交流研究会の会長である松井氏に東日本大震災に対する日本技術士会防災支援委員会の取組みと松井氏自身が震災当日羽田空港で一泊を明かした時のお話をさせていただきました。



写真-2 会場の様子

■第124回 講演会概要

地質学と教育と哲学と
—研究者の目指す方向性の試行実験—
 札幌学院大学 人文学部 こども発達学科
 小出良幸氏

◆講演目次

- ・自己紹介：どんなことをしてきたのか
- ・科学教育の試行
- ・大学教員として
- ・私が目指す科学教育とは：
 一人でできたこと、やってきたこと
- ・私が目指す地質学とは
- ・私が目指す地質哲学とは：
 地質哲学のいくつかの試み

第124回は札幌学院大学小出教授に「地質と教育と哲学と」と題してご講演いただきました。

小出教授は、大学院・研究生時代から博物館の学芸員としての子供達や障害者との活動、そして大学の教員として、これまで行ってきた研究や教育普及・ボランティアの成果をご紹介下さいました。そして、これらの活動の過程の中で、自分の研究を極めることも重要であるが、科学教育や普及活動を通じて、学ぶ人に対し、自分の伝えたいことを信念を持って伝えるためには、自然哲学(地質哲学)が重要であることに気づき、哲学についていろいろ考えるようになったと言います。



写真-3 小出教授ご講演の様子

科学と教育と哲学は三位一体であり、不可分であることから、理想の研究者像とは、これらの三位一体を実践することであり、小出教授はそんな研究者を目指して自身も自然への回帰を目指し、地質哲学

に関するいろいろな試みを実践しているのです。

人にものを伝えるために必要な、自身のもつ哲学。これは研究者も我々コンサルタントも同じであろうと感じた次第です。

図-1 研究と教育に関する3つの視座

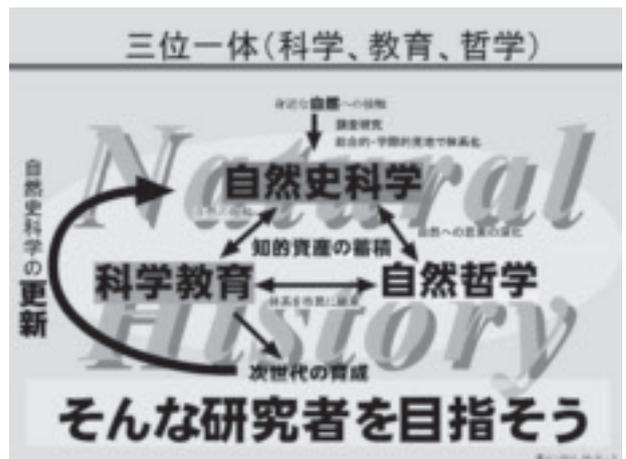


図-2 小出教授が目指す研究者像

【幹事より】

技術交流研究会は、6月、9月、12月の第一木曜日の午後3時から Docon 新札幌ビルで開催しています。

また、会員も随時募集しております。公益社団法人日本技術士会の会員であれば、どなたでも入会できます。入会を希望される方、研究会に出席を希望される方は、公益社団法人日本技術士会北海道本部事務局(出村)までご連絡ください。